

新 旧 対 照 表

(下線部は変更部分)

○ J R 八木駅周辺整備プロジェクト (抄)

[平成 30 年 3 月 30 日認定]

変更後				変更前			
1～3 (略)				1～3 (略)			
4 地域再生計画の目標				4 地域再生計画の目標			
4-1・4-2 (略)				4-1・4-2 (略)			
4-3 目標				4-3 目標			
<p>本計画は、J Rによる駅舎改修に合わせて市が周辺整備を実施し、駅の利便性向上を図るものである。駅の西側エリアの魅力を高め居住人口を増やすとともに、駅の東西の交流を促進することで商店街の活性化につなげ、人口増加や地域経済の活性化を通して本市の地方創生の実現を目指す。</p> <p>なお、長期的には、駅の西側エリア(土地区画整理事業区域内)の人口について、将来人口として580人(現在は約30人)を想定している。</p>				<p>本計画は、J Rによる駅舎改修に合わせて市が周辺整備を実施し、駅の利便性向上を図るものである。駅の西側エリアの魅力を高め居住人口を増やすとともに、駅の東西の交流を促進することで商店街の活性化につなげ、人口増加や地域経済の活性化を通して本市の地方創生の実現を目指す。</p> <p>なお、長期的には、駅の西側エリア(土地区画整理事業区域内)の人口について、将来人口として580人(現在は約30人)を想定している。</p>			
【数値目標】				【数値目標】			
事業	J R 八木駅周辺整備プロジェクト		年月	事業	J R 八木駅周辺整備プロジェクト		年月
KPI	J R 八木駅乗車人数 (人/日)	八木町地域商工会 会員数		KPI	J R 八木駅乗車人数 (人/日)	八木町地域商工会 会員数	
申請時	3,068 人 (H28)	182	H30.1	申請時	3,068 人 (H28)	182	H30.1
初年度	<u>3,150 人</u>	182	H31.3	初年度	3,100 人	182	H31.3
2年目	<u>3,150 人</u>	183	H32.3	2年目	3,100 人	183	H32.3

3年目	<u>3,150人</u>	184	H33.3
4年目	<u>3,150人</u>	185	H34.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 (略)

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1)・(2) (略)

(3) 事業の目的及び内容

(目的) (略)

(事業の内容)

・JR八木駅周辺整備プロジェクト

橋上化予定のJR嵯峨野線（山陰本線）八木駅の改札口に接続する東西自由通路を整備し、駅の東西両側から直接アクセス可能にするとともに、東西の人の移動を実現する。（駅舎の改修工事自体はJRが実施し、自由通路の設計・工事を市が実施する。）併せて、八木駅西土地区画整理事業区域内に市道を築造し、新たな住宅街の形成を目指す。

→各年度の事業の内容

JR八木駅周辺整備プロジェクト

初年度) 東西自由通路の実施設計

2年目) 東西自由通路の新築工事、八木駅西土地区画整理事業（市施工分）

3年目	3,100人	184	H33.3
4年目	3,100人	185	H34.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 (略)

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1)・(2) (略)

(3) 事業の目的及び内容

(目的) (略)

(事業の内容)

・JR八木駅周辺整備プロジェクト

橋上化予定のJR嵯峨野線（山陰本線）八木駅の改札口に接続する東西自由通路を整備し、駅の東西両側から直接アクセス可能にするとともに、東西の人の移動を実現する。（駅舎の改修工事自体はJRが実施し、自由通路の設計・工事を市が実施する。）

→各年度の事業の内容

JR八木駅周辺整備プロジェクト

初年度) 東西自由通路の実施設計

2年目) 東西自由通路の新築工事

(4) (略)

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	J R八木駅周辺整備プロジェクト		年月
KPI	J R八木駅乗車人数 (人/日)	八木町地域商工会 会員数	
申請時	3,068人 (H28)	182	H30.1
初年度	<u>3,150人</u>	182	H31.3
2年目	<u>3,150人</u>	183	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

J R八木駅周辺整備 プロジェクト	年度	H30	H31	計
	事業費計	57,830	<u>228,620</u>	<u>286,450</u>
区分	委託料	57,830	<u>213,620</u>	<u>271,450</u>
	<u>工事請負費</u>		<u>15,000</u>	<u>15,000</u>

(7)～(9) (略)

5-3 (略)

6・7 (略)

(4) (略)

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	J R八木駅周辺整備プロジェクト		年月
KPI	J R八木駅乗車人数 (人/日)	八木町地域商工会 会員数	
申請時	3,068人 (H28)	182	H30.1
初年度	3,100人	182	H31.3
2年目	3,100人	183	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

J R八木駅周辺整備 プロジェクト	年度	H30	H31	計
	事業費計	57,830	<u>277,223</u>	<u>335,053</u>
区分	委託料	57,830	<u>277,223</u>	<u>335,053</u>
	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)

(7)～(9) (略)

5-3 (略)

6・7 (略)

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

J R八木駅周辺整備プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

南丹市

3 地域再生計画の区域

南丹市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

南丹市は、平成18年に旧八木町・旧園部町・旧日吉町・旧美山町の4町の合併により誕生した、人口32,452人（平成29年4月1日）の市である。人口の減少傾向が続いており、総人口は10年間で8.3%減少している。本計画で整備を予定するJ R八木駅が所在する八木町地域でも人口7,550人（平成29年4月1日）と、こちらも10年間で10.0%減少している状況にある。特に若年層の人口減少は著しく、生産年齢人口は10年間で21.6%も減少している。人口減少が商工業へ及ぼす影響も大きく、商工会の会員数も10年間で33%減少している。

八木町地域は市内で最も京都市に近いことから、市外へ通勤・通学する人の割合は市内他地域よりも高く、通勤では就業者の40.7%、通学では62.0%が京都市をはじめとする本市外に通勤・通学している。

また、八木駅近隣には京都府の二次医療圏である南丹医療圏の中核を担い、市内のみならず近隣市町からも多くの患者が通院する「京都中部総合医療センター」が立地している。

このようにJ R嵯峨野線（山陰本線）で京都駅と約30分で結ばれる八木駅は、八木町地域から京都市を中心とする近隣都市へ通勤・通学する市民の重要な通勤・通学手段であるとともに、京都中部総合医療センターの通院患者の通院手段、南丹市の玄関口であり、公共交通の要として非常に大きな役割を担い、市民の生活に欠かせないものである。

そのような中、平成30年度からJ Rによる老朽化した八木駅舎の改築による橋上化が予定されている。

4-2 地域の課題

前述のとおり、本市では少子高齢化や若者の市外流出による人口減少が

進展しており、今後もさらなる人口減少が見込まれている。このまま人口減少が続くと、店舗の減少等によりまちの賑わいが失われるとともに生活利便性にも支障が生じ、そのことがさらなる市外への人口流出につながるという負のスパイラルに陥りかねない。この連鎖を断ち切るべく、地域の魅力を高め、賑わいを創出する取組が求められている。

現在の八木町地域はJRと国道9号が並行して走り、八木駅を中心に市街地が形成され、公共施設も多数立地している。京都方面への鉄道アクセスの良好さは当該地域の強みと考えられることから、八木駅を中心としたまちづくりが求められるところである。

地域について詳しくみていくと、駅の東側は商店街が形成され多くの店舗が建ち並ぶ等、地域の中心となる市街地としてこれまで発展してきた。しかし近年、若者の近隣市への流出や少子高齢化による人口減少が続く、商店街や駅周辺の賑わいも失われつつある。商店街の事業者等が加盟する商工会の会員数はこの10年間で33%減少し、空き店舗が目立つようになっている。一方、駅の西側のエリアは以前より田畑が広がる地域である。駅からの距離が近いにもかかわらず住宅開発は進んでいない。

これらの最大の要因は八木駅の構造にあると考えられる。現在の駅舎は地上平面で出入口は東口のみしかなく、駅の改札口を出てから駅の西側エリアに向かうためには、一旦東口を出た上で少し離れた踏切を迂回しなければならない、極めて利便性が低い構造となっている。また、駅の東西を人が行き来することもできず、買い物や通学といった移動にも支障をきたしている。つまり、駅及び線路によってその東西が分断された状態となっている。

その結果として、駅の西側エリアは有効な活用ができておらず居住人口が極めて少ないとともに、駅の東側エリアの商店街にとっても商圈を狭める結果となっていることから、この問題の解決が求められている。

4-3 目標

本計画は、JRによる駅舎改修に合わせて市が周辺整備を実施し、駅の利便性向上を図るものである。駅の西側エリアの魅力を高め居住人口を増やすとともに、駅の東西の交流を促進することで商店街の活性化につなげ、人口増加や地域経済の活性化を通して本市の地方創生の実現を目指す。

なお、長期的には、駅の西側エリア（土地区画整理事業区域内）の人口について、将来人口として580人（現在は約30人）を想定している。

【数値目標】

事業	J R 八木駅周辺整備プロジェクト		年月
KPI	J R 八木駅乗車人数 (人/日)	八木町地域商工会 会員数	
申請時	3,068 人 (H28)	182	H30.1
初年度	3,150 人	182	H31.3
2年目	3,150 人	183	H32.3
3年目	3,150 人	184	H33.3
4年目	3,150 人	185	H34.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本計画は、橋上化予定の J R 嵯峨野線（山陰本線）八木駅の改札口に接続する自由通路を整備し、駅の東西から直接アクセス可能にするとともに、東西の人の移動を実現するものである。合わせて、駅の西側エリアで土地区画整理事業を実施し、新たな住宅街の形成を目指す。商店街の活性化については、地域団体が行う空き家や空き店舗を活用した定住促進拠点施設の整備に対する支援を並行して行う。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：J R 八木駅周辺整備プロジェクト

(2) 事業区分：まちづくり（コンパクトシティ等）

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本事業は、J R による駅舎改修に合わせて市が周辺整備を実施し、駅の利便性向上を図るものである。駅の西側エリアの魅力を高め居住人口を増やすとともに、駅の東西の交流を促進することで商店街の活性化につなげ、人口増加や地域経済の活性化を通して本市の地方創生の実現を目指す。

(事業の内容)

・ J R 八木駅周辺整備プロジェクト

橋上化予定の J R 嵯峨野線（山陰本線）八木駅の改札口に接続する東西自由通路を整備し、駅の東西両側から直接アクセス可能にするるとともに、東西の人の移動を実現する。（駅舎の改修工事自体は J R が実施し、自由通路の設計・工事を市が実施する。）併せて、八木駅西土地地区画整理事業区域内に市道を築造し、新たな住宅街の形成を目指す。

→各年度の事業の内容

J R 八木駅周辺整備プロジェクト

初年度) 東西自由通路の実施設計

2年目) 東西自由通路の新築工事、八木駅西土地地区画整理事業（市施工分）

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市の「南丹市地域創生戦略」においては、基本目標 2 として「南丹市への人の流れを増幅させる」を掲げ、具体的な施策として「(1) 定住・移住促進に向けた情報発信と支援」等により若者の定住促進を図り、数値目標として「転出者数」を 1,275 人（2014 年）から 100 人減少（2019 年）させると定めている。また、総合戦略の数値目標として「市内 JR 駅乗降者数」を 575 万人（2013 年度）から 578 万人（2019 年度）にすると定めている。本プロジェクトはこれらの目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	J R 八木駅周辺整備プロジェクト		年月
	J R 八木駅乗車人数 (人/日)	八木町地域商工会 会員数	
申請時	3,068 人 (H28)	182	H30.1
初年度	3,150 人	182	H31.3
2年目	3,150 人	183	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

J R 八木駅周辺整備 プロジェクト	年度	H30	H31	計
		事業費計	57,830	228,620
区分	委託料	57,830	213,620	271,450

	工事請負費		15,000	15,000
--	-------	--	--------	--------

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	H31	計
製造業	100	100	200
製造業	100	100	200
計	200	200	400

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

事業の KPI について、実績値を公表する。また、本市の南丹市地域創生会議において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度 6 月に南丹市地域創生会議による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針に反映させる。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに南丹市ホームページで公表する。

(9) 事業期間

平成 30 年 4 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) JR 八木駅周辺整備プロジェクト

事業概要：駅の東西を自由に行き来できる自由通路の設置を引き続き実施する。

実施主体：南丹市

事業期間：平成 32 年度

(2) 八木駅西土地区画整理事業

事業概要：八木駅の西側において土地区画整理事業を実施する。現在、農地が大半を占める地域で駅周辺の整備に併せて住宅地を形成し、地域の活性化を図るとともに駅西口の駅前広場・ロータリーの整備を実施することで駅前の賑わいと人口増加による地域活性化を図る。

実施主体：八木駅西土地区画整理組合

事業期間：平成 26 年度～平成 33 年度

(3) 地域定住促進拠点施設整備事業

事業概要：社会資本整備総合交付金（空き家再生等推進事業）を活用し、商店街等の空き家を地域の定住促進を目的としたお試し住宅及び定住促進の拠点へ整備する地域団体への支援。

実施主体：南丹市

事業期間：平成 27 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 34 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

事業の KPI について、実績値を公表する。また、本市の南丹市地域創生会議において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度 6 月に南丹市地域創生会議による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針に反映させる。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに南丹市ホームページで公表する。